



CORNER ITALIANO | 公式資料

テーママップ

本書の中心的な問いを探す

読書のためのテーマ索引

改訂英語版本文に準拠・資料の基準時点：2026年7月・資料版 JA-R2.3

<https://www.corneritaliano.com/ja/2050/resources/>

案内 本書は、これらの問いを異なる尺度で展開します。ページ番号が変わっても、章番号と節の見出しを使って各テーマを探せます。見出しは改訂英語版本文（2026年）のものです。

成熟した希望と権限委譲の限界

本書で扱う場所：序章 (Introduction)、 「2050年までの距離」 (The Distance to 2050); 第16章、 「利用前：記入シートと委任範囲」 (Before Use: Worksheet and Mandate); 終章 (Epilogue)、 「委ねないもの」 (What We Do Not Delegate)。

技術を学び、暮らしを改善するときに使います。拒否も含め、人の選択によって利用に限界を設け、その影響を是正できる余地を守ります。

能力、信頼性、権限

本書で扱う場所：序章 (Introduction)、 「2050年までの距離」 (The Distance to 2050); 間奏I (Interlude I)、 「三つの回答の状態」 (The Three Answer States); 第1章、 「機械は事例からどう学ぶか」 (How Machines Learn from Examples); 第4章、 「責任はどこに帰属するか」 (Where Responsibility Falls); 第7章、 「ツインにできないこと」 (What the Twin Cannot Do), 「権限委譲の四つのモード」 (Four Modes of Delegation); 第8章、 「人間性を損なわないケア」 (Caring Without Dehumanizing), 「拡張された診断と、精密さを真実と取り違えるリスク」 (Augmented Diagnosis and the Risk of Mistaking Precision for Truth); 第12章、 「予測の時代の権利」 (Rights in the Age of Prediction); 第16章、 「利用前：記入シートと委任範囲」 (Before Use: Worksheet and Mandate); 付録、読者のためのツール (Appendix, Tools for the Reader)、 「三つの統制語彙のマップ」 (Map of the Three Vocabularies)。

何かを行えること、現実の条件で成功すること、行為を認可されていることは、別の性質です。

2050年テストと三つの語彙

本書で扱う場所：間奏I (Interlude I)、 「委ねる前の七つの問い」 (Seven Questions Before Delegating), 「三つの回答の状態」 (The Three Answer States); 第7章、 「権限委譲の四つのモード」 (Four Modes of Delegation); 間奏II (Interlude II)、 「統制のコスト」 (The Cost of Control); 第16章、 「利用前：記入シートと委任範囲」 (Before Use: Worksheet and Mandate); 付録、読者のためのツール (Appendix, Tools for the Reader)、 「2050年テストの七つの問い」 (The Seven Questions of the 2050 Test), 「回答が「十分」となる場合と「阻止条件」となる場合」 (When an Answer Is Sufficient, and When It Blocks), 「決定規則」 (The Decision Rule), 「最低限の記入シート」 (The Minimum Worksheet)。

七つの問い、回答の状態、組織としての決定は分離されたままであり、相殺する平均値は生み出しません。

アイデンティティ、証明の最小化、ポータビリティ

本書で扱う場所：第2章、「すべてではなく、十分なことを証明する」(Proving Enough, Not Everything); 「検証可能なクレデンシャル」(The Verifiable Credential); 「根拠の移動と復旧」(Moving and Recovering Evidence); 第3章、「世界が音もなく止まる日」(The Day the World Stops Without a Sound); 第16章、「システムが閉じるときの継続性」(Continuity When a System Closes); 付録、読者のためのツール (Appendix, Tools for the Reader)、「2050年テストの七つの問い」(The Seven Questions of the 2050 Test).

その人の全体を差し出すことも、復旧と離脱のリスクをすべて本人に転嫁することもなく、必要なことだけを示します。

インフラ、継続性、離脱テスト

本書で扱う場所：第3章、「世界が音もなく止まる日」(The Day the World Stops Without a Sound); 第14章、「契約の背後にあるインフラ」(The Infrastructure Behind the Contract); 第16章、「システムが閉じるときの継続性」(Continuity When a System Closes); 付録、読者のためのツール (Appendix, Tools for the Reader)、「2050年テストの七つの問い」(The Seven Questions of the 2050 Test).

クラウドサービス、ネットワーク、API、契約、残存能力は、範囲を縮小した継続性と置換を検証することで、統治可能になります。

仕事、能力、研修

本書で扱う場所：第4章、「大きな移行：業務から責任へ」(The Great Shift: From Tasks to Responsibilities); 第6章、「知識を伝えることから判断力を育てることへ」(From Transferring Knowledge to Cultivating Judgment); 第7章、「ツインにできないこと」(What the Twin Cannot Do); 第10章、「ここに人がいた」(A Person Was Here); 第16章、「利用前：記入シートと委任範囲」(Before Use: Worksheet and Mandate).

自動化は業務を圧縮します。働く人に判断を実践する時間と結果への権限があるとき、実地育成は判断力を実際に使える状態に保ちます。

委任範囲、救済、実質的な監督

本書で扱う場所：第4章、「責任はどこに帰属するか」(Where Responsibility Falls); 第5章、「公共の視線の委任範囲」(The Mandate of the Public Gaze); 第7章、「委任範囲をどこで止めるべきか」(Where the Mandate Must Stop); 第8章、「拡張された診断と、精密さを真実と取り違えるリスク」(Augmented Diagnosis and the Risk of Mistaking Precision for Truth); 第12章、「予測の時代の権利」(Rights in the Age of Prediction); 第16章、「何かが道を外れたとき：インシデントと救済」(When Something Goes Off Course: Incident and Redress); 間奏I (Interlude I)、「委ねる前の七つの問い」(Seven Questions Before Delegating); 間奏II (Interlude II)、「統制のコスト」(The Cost of Control).

人が手続の中で意味を持つのは、根拠、時間、一時停止し訂正して理由付きの結果を得る権限を持つときです。

ケア、不確実性、尊厳

本書で扱う場所：第8章、「人間性を損なわないケア」(*Caring Without Dehumanizing*), 「人生の終末期のケア」(*Care at the End of Life*); 第11章、「眠らない友人」(*The Friend Who Never Sleeps*); 第15章、「決して去らない死者たち」(*The Dead Who Never Leave*).

技術的な誤り、臨床上の不確実性、価値観の対立、寄り添い、別れには、それぞれ異なる応答が必要です。

公共的真実、来歴、認識論的疲労

本書で扱う場所：第9章、「公共的な信頼を再構築する」(*Rebuilding Public Trust*); 第10章、「創作の源泉とその利用」(*Creative Sources and Their Use*); 付録、読者のためのツール (*Appendix, Tools for the Reader*)、 「基本用語集」(*Essential Glossary*).

出所と変換を再構成することは検証に役立ちますが、公共的な信頼は、主張に異議を唱える人と機関の負担にも左右されます。

著者性、署名、新しい希少性

本書で扱う場所：第10章、「生成から作品へ」(*From Generation to a Work*), 「ここに人がいた」(*A Person Was Here*); 第9章、「公共的な信頼を再構築する」(*Rebuilding Public Trust*).

来歴、使用した道具の開示、署名は、作品に価値を自動的に与えることなく、歴史、透明性、責任を配分します。

愛着、未成年者、関係の非対称性

本書で扱う場所：第11章、「眠らない友人」(*The Friend Who Never Sleeps*), 「非対称性」(*The Asymmetry*), 「愛情のビジネスモデル」(*The Business Model of Affection*); 第15章、「決して去らない死者たち」(*The Dead Who Never Leave*); 第16章、「導入しないという決定」(*Deciding Against Adoption*).

慰めは、記憶、インセンティブ、中止の自由、ほかの関係への開放性によって、橋にも檻にもなります。

プライバシー、プロファイリング、未測定区間

本書で扱う場所：第5章、「公共の視線の委任範囲」(*The Mandate of the Public Gaze*); 第12章、「偏りがシステムに入り込むとき」(*When Bias Enters the System*), 「予測の時代の権利」(*Rights in the Age of Prediction*); 第11章、「愛情のビジネスモデル」(*The Business Model of Affection*).

保護によって指揮権が自動的に認可されるわけではなく、人は直ちに運用上のプロファイルを生むことなく変わらなければなりません。

統制コスト、残存損害、組織能力

本書で扱う場所：第7章、「検証プロトコル」(*The Testing Protocol*); 第8章、「拡張された診断と、精密さを真実と取り違えるリスク」(*Augmented Diagnosis and the Risk of Mistaking Precision for Truth*); 第14章、「保守が、誰に発言力が残るかを定める」(*Maintenance Determines Who Keeps a Voice*); 間奏II (*Interlude II*)、「統制のコスト」(*The Cost of Control*), 「残る損害」(*The Harm That Remains*); 付録、読者のためのツール (*Appendix, Tools for the Reader*)、「2050年テストの七つの問い」(*The Seven Questions of the 2050 Test*).

検証には時間と能力が必要であり、リスクゼロは約束しません。システムを制限する手段を伴い、再構成と修復を支える記録を残さなければなりません。

物質的な持続可能性と公正

本書で扱う場所：第3章、「世界が音もなく止まる日」(*The Day the World Stops Without a Sound*); 第13章、「隠れたサプライチェーン：鉱山、工場、物流、廃棄物」(*The Hidden Supply Chain: Mines, Factories, Logistics, and Waste*), 「データセンター周辺の水と土地」(*Water and Land Around the Data Center*), 「進歩の新しい考え方」(*A New Idea of Progress*); 第14章、「国境を越える協力」(*Cooperation Across Borders*).

エネルギー、水、鉱物、機器、労働、廃棄物は、抽象的なコストではなく、意思決定の連鎖を構成します。

戦略的依存、保守、インフラ上の発言力

本書で扱う場所：第3章、「世界が音もなく止まる日」(*The Day the World Stops Without a Sound*); 第14章、「保守が、誰に発言力が残るかを定める」(*Maintenance Determines Who Keeps a Voice*), 「契約の背後にあるインフラ」(*The Infrastructure Behind the Contract*).

相対的な自律性は、代替策、現地の能力、標準、一時停止・訂正・エクスポートの具体的な権限から育ちます。

不平等とアクセス

本書で扱う場所：間奏I (*Interlude I*)、「4. 配分—誰が便益を受け、誰が負担し、誰が異議を唱えられるか？」(*4. Distribution—Who Benefits, Who Pays, and Who Can Object?*); 第4章、「責任はどこに帰属するか」(*Where Responsibility Falls*); 第5章、「市民の合意としての都市」(*The City as a Civic Compact*); 第6章、「道具を超える判断」(*Judgment Beyond the Tool*); 第8章、「人間性を損なわないケア」(*Caring Without Dehumanizing*); 第12章、「予測の時代の権利」(*Rights in the Age of Prediction*); 第13章、「進歩の新しい考え方」(*A New Idea of Progress*); 第14章、「相互依存の中の自律性」(*Autonomy Within Interdependence*).

便益、待ち時間、保護、コストは、所得、地域、行政能力、救済へのアクセスによって変わります。

記憶、アーカイブ、シミュレーション、忘却

本書で扱う場所：第15章、「決して去らない死者たち」(*The Dead Who Never Leave*), 「去った人々と語る」(*Talking to Those Who Are Gone*), 「消える権利」(*The Right to Disappear*), 「記憶はアーカイブではない」(*Memory Is Not an Archive*); 第11章、「眠らない友人」(*The Friend Who Never Sleeps*); 第12章、「予測の時代の権利」(*Rights in the Age of Prediction*); 終章 (Epilogue)、「委ねないもの」(*What We Do Not Delegate*).

痕跡を保存すること、追悼資料を整理すること、新しい言葉を生成することは、それぞれ異なる委任範囲と権利を伴う、別々の行為です。

ライフサイクル、モニタリング、離脱

本書で扱う場所：第7章、「検証プロトコル」(*The Testing Protocol*); 第16章、「利用前：記入シートと委任範囲」(*Before Use: Worksheet and Mandate*), 「利用中：記録と監督」(*During Use: Log and Oversight*), 「何かが道を外れたとき：インシデントと救済」(*When Something Goes Off Course: Incident and Redress*), 「システムが閉じるときの継続性」(*Continuity When a System Closes*); 付録、読者のためのツール (*Appendix, Tools for the Reader*)、「2050年テストの七つの問い」(*The Seven Questions of the 2050 Test*), 「最低限の記入シート」(*The Minimum Worksheet*), 「要約事例：ダヴィデ、2050年10月15日とその後の追跡」(*Condensed Example: Davide, October 15, 2050, and Follow-up*).

記入シート、記録、インシデント、救済、離脱テスト、再審査により、モデル、データ、規模、責任者が変わっても委任範囲を観察可能に保ちます。

委任しない、「しない」コスト、再開

本書で扱う場所：第16章、「導入しないという決定」(*Deciding Against Adoption*), 「拒否のコストと再検討」(*The Costs of Refusal and Reconsideration*); 終章 (Epilogue)、「委ねないもの」(*What We Do Not Delegate*); 付録、読者のためのツール (*Appendix, Tools for the Reader*)、「要約事例：ダヴィデ、2050年10月15日とその後の追跡」(*Condensed Example: Davide, October 15, 2050, and Follow-up*).

拒否は保護とコストを記録し、代替策を維持します。新しいテストによって、最初の判断を消さずに決定を再開できます。